

2023 年度入学式 式辞

4,795 名の新入生の皆さん、神奈川大学、また神奈川大学大学院へのご入学、誠におめでとうございます。皆さんはもちろん、ご家族やご関係の皆様のお喜びもひとしおのことと存じます。神奈川大学のすべての教職員、そして1万3千人を超えるすべての在學生は、新入生の皆さんを心より歓迎いたします。

さて、私たちの回りでは、日々、大小さまざまな「変化」が起きています。ここ数年間で、私たち人類に最も大きな影響を与えた「変化」は、おそらく新型コロナウイルス感染症の流行ではないでしょうか。この未知の感染症の拡大に、世界中の人びとが悩み苦しみ、わずか数カ月ほどで、人びとの生活は大きな変化を余儀なくされました。高校生だった皆さんも、十分な対面教育を受けられず思うような学習ができなかったり、課外活動や校外学習でもさまざまな制約があったりしたのではないかと思います。辛い思いや悔しい思いもたくさんされたことでしょうし、進路や進学不安もあったことでしょう。皆さん一人ひとりがそのような逆境をはねのけて神奈川大学に合格し、今日という日を迎えられることに、改めて敬意を表します。

この三年間、神奈川大学も新型コロナウイルス感染症への対応に腐心してきました。2020年度は、学生の皆さんの安全を第一に考え、ほとんどの授業をオンラインとせざるを得ませんでしたし、昨年度も多人数の授業はオンラインによって行われました。実験や実習もこれまでと同じように実施することができず、在學生の皆さんが学修や研究の成果を出すには並々ならぬ努力が必要であったと思います。私たち教職員も、急激な社会の変化になんとか対応し、コロナの状況下で万全の教育を行うことができるよう、全員が一丸となって、その時々にはできることを全力で行ってきました。

これまでも、私たち人類は、長い歴史の中でさまざまな「変化」に遭遇し、その状況に適応し、逆境を乗り越えることによって進化を遂げてきましたが、このパンデミックを経て、今、社会では新たな価値観や生活様式が生まれています。このように、マイナスの変化をプラスの変化に転換させようとしてきた努力、これこそが私たち人間を進化させてきたとも言えるのです。したがって、世界中に多大なる影響を与えたこの未知のウイルスによる逆境も、人類全体が「時代を切り拓く力」をつけ、新たなステージに立つきっかけとして捉えなおすことが必要です。本学も、コロナ禍によってさまざまな影響を受けてきましたが、今後はこ

れを、ウィズコロナあるいはポストコロナ社会における新たな大学教育のあり方を模索する契機としていく覚悟です。

さて、神奈川大学は、現在、大きな「変化」の中にあります。2020年度に国際日本学部を新設し、2021年度にはみなとみらいキャンパスを開設しました。そこには、外国語学部と国際日本学部、そして湘南ひらつかキャンパスから経営学部の3学部が集まりました。さらに、2022年度に新設した建築学部、この四月に湘南ひらつかキャンパスから横浜キャンパスに移転した理学部、同じくこの4月に新設した化学生命学部と情報学部、既存の工学部を加え、理工系全5学部が横浜キャンパスに集結しました。

このような大学のキャンパスや学部の新設、改組などのハード面の変化は、いわば「変化の第一段階」です。これから必要なのはその新しい環境の中でどのような教育を行うのかという教育の中身そのもの、すなわちソフト面の改革です。それは教育の内容や方法を絶えず見直すことにより、教員と学生が学び合い、互いの知を刺激することによって、新たな未来を創出していくことに他なりません。したがって、神奈川大学のこの「変化の第二段階」は、これからここにいらっしゃる皆さん一人ひとりと共に創り出していくものとも言えるのです。

ここで、本学に入学された皆さんに考えていただきたいことがあります。

一点目は、神奈川大学の歴史についてです。神奈川大学の前身は、1928年に横浜の桜木町に米田吉盛先生が創立した横濱学院でした。本学の建学の精神である「質実剛健」とは、伝統・古典を尊重し、良識を重んじ、正義を貫くという価値観を意味します。「積極進取」とは、困難なことに対して積極的に挑戦し、進歩・進化を求めていくという価値観を意味します。そして、「中正堅実」とは、この二つの価値観をよく自覚し、自律の精神と共生の視点から「探究・調和・融合」することにより、真理・本質を見極め、自主的主体性をもって新たな価値観を創造していくことを意味しています。神奈川大学のこの建学の精神は、新入生の皆さんが大学生、大学院生として学問の道を進むために必要な真理を示しています。この建学の精神の意味するところを、改めて、そして折に触れて考えていただきたいと思います。

二点目は、ダイバーシティの考え方についてです。神奈川大学は、2028年の創立100周年に向けた将来像を次のように定めています。「海により開かれ、世界との接点となった横浜に生まれた本学園は、多様な価値観の共存する時代に、人の交流と文化の融和、知識と実践の循環、教育と研究の融合による二十一世紀における「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題

を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する学園を目指します」。

さて、ここで謳われている「多様な価値観の共存する時代」とは、多くの国や地域の人びとと生活する国際化の進んだ現代という意味だけでなく、年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好など様々な背景を持つ人びとによって形成されている現代をも意味しています。そのような社会において、多様性を尊重し、一人ひとりの人権と自由を守ることは当然のこととされています。

神奈川大学は、2018年に「ダイバーシティ宣言」を公表しましたが、ダイバーシティへの配慮は、だれもが孤立しないコミュニティの形成につながり、一人ひとりが積極的に物事に参加する機会を創り出し、個人の能力を最大限に発揮できる環境づくりに直結します。それゆえに、ダイバーシティの考え方は不可欠なものなのです。本学は、多様な価値観の共存する時代に、多様な人びとの交流と文化を融和させ、大学で学んだ知識を実践として理解し、教育と研究を融合させることによって21世紀における「真の実学」を実現しようとしています。どうか、常にこのダイバーシティの考え方を心に留め、神奈川大学の目指す二十一世紀の「真の実学」をそれぞれの学部や研究科で学んでほしいと願っています。

今、皆さんは、大学や大学院で学ぶという新しい環境に対する期待に胸を大きく膨らませる一方で、大きな不安も抱えているのではないかと思います。そのような皆さんの気持ちに寄り添って、本学はできる限りの手助けをしていきたいと思っています。ぜひ、すべての教職員、すべての先輩たちとともに、未来の神奈川大学をともに造っていきましょう。

最後になりますが、すべての新入生の皆さんが、実りの多い学生生活を過ごされることを心より祈念いたしまして、式辞といたします。

2023年4月3日

神奈川大学長
小熊 誠